

# 第56回全日本学生グライダー競技選手権大会

四年生 井上 翔太

3月1日～3月8日まで妻沼滑空場において全日本学生グライダー競技会が行われた。私は東海関西競技会で準優勝を果たし、全国への切符を手に入れた。

## DAY1

強風のため競技なし。

## DAY2

日本の上空へ寒気が流入してきたことにより、ビックデイとなった。この日は24kmタスクが発表されており、多数の選手が周回を果たすことができた。私はASW 28の高速域を活用することによって22分で周回することができ、結果的に最速タイムであった。このフライトでは、赤屋根上空で一気に1000mまで上昇し、プラスのラインを探しながら高速でクルージングしたことが勝因であった。しかしながら、機体のハンディキャップより900点近くまで圧縮され3位まで順位を落としたことが悔やまれる。

## DAY3

2日目の影響を受け、拡大タスクが発表されるという噂が囁かれたが、結局2日目ほど条件は良くなり、タスクの変更はなかった。私は給水塔ワンポイントを果たすことができました。この日は風が強くなるにつれてサーマルが無くなっていき千代田まで足を延ばすことができませんでした。この日に周回できた選手はラッキーでその後も上位をキープできたものとする。

## DAY4

この日は5回フライトしたが、どのフライトで

も得点することができなかった。敗因としては、弱いサーマルで粘り強く止まり続けなかったことだと考えている。ASW28では低速域が弱いため、旋回半径を縮めることができず、急旋回を行うと沈下率が上がってしまい上昇率が悪くなるという欠点をはらんでいる。この日は、それをしっかりと理解した上で、粘り強くサーマルトップまで上がりきって旋回点に向かうべきであった。また、別の方法としては、サーマルの発生ポイントが確実にわかっているなら、ある程度高度をゲインしてそのポイントに向かいサーマルの乗り継ぎで旋回点を回る方法もあるが、私はそれほどの技量が無かった。ここで周回できなかったのは、機体の特性もあるが私の技量不足が顕著に現れたものだと考えている。

## DAY5

この日は曇天で周回者はありませんでした。

## DAY6

5日目に続いて曇天だったが、なんと東大の2チームは見事周回を果たし、お見事でした。しかしながら、ガイドライン以下の高度で違反を覚悟で周回するのはグライダーマンとしてはどうかと疑問を覚えました。

## DAY7

雨により競技はなし。

## DAY8

この日は暖かい陽気で条件はあまり良くなく雲底が上がりきらない中で周回者はありませんでした。

以下に結果を掲載します。

【個人】

- 1位 田中努（早稲田 23） 2531 点
- 2位 青池秀人（慶應 Discus） 2518 点
- 3位 柴田翔（東大 24） 2431 点
- 4位 長谷川幸弘（東北 LS） 2344 点
- 5位 西川尚哉（日大 A） 2102 点
- 6位 中西航（京大 discus） 2058 点
- （中略）
- 25位 井上翔太（同志社大学） 1054 点

【団体】

- 1位 慶応 Discus 4927 点
  - 2位 早稲田 23 4841 点
  - 3位 京大 Discus 4263 点
  - 4位 青山 Discus 4221 点
  - 5位 東大 24 4094 点
  - 6位 日大 A 3575 点
- ※選手 1 名のチームには、団体得点はなし。

この大会では残念ながら結果を残すことはできませんでした。去年の成績とも比較すると同じくらいの点数であり私はこの 1 年間で本当に成長できたのか疑問が残ります。

この大会でわかったことは、24km のタスクでは ASK23, Ka-6 などが有利であるということです。ASW28 の高速域における性能は目を見張るものがあり、条件の良い日には高速で周回することができます。しかし、少し条件が悪くなると、パイロットに多大な粘り強さを求めることから、成績を残すことが困難になってきます。

しかしこれからの学生グライダー競技も成長していくことを考えると、24km タスクでは止まら

ないと考えますので、これから ASW28 は有利になってくると思います。また、これから大会に挑む現役学生にはただグライダーに乗れるだけでなく、いかに高度を稼ぎクルージングするかということをよくよく考えて飛んで欲しいと思います。